

2 0 2 5 年 度 事 業 報 告 書

概 況

漁業従事中の海難事故等により遺児となった子供のため、以下の事業を実施した。

本会の育英事業は、遺児が社会に出るまで長期間にわたり継続した支援が必要です。そのため、社会・経済情勢の変化に適切に対応し、安定した事業運営が継続できるよう、資産の保全、財務基盤の充実および業務の改善に努めた。

I. 事業状況（公益目的事業の実施状況）

1. 学資給与（奨学金給付）、入学等記念品

（1）奨学生

奨学生の採用は、奨学生選考委員会が奨学金希望者の願書に基づき選考した。結果は表－1のとおり。奨学生の区分別増減は表－2のとおり。

表－1 奨学生採用者数

（単位：人）

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	合計
採用者数	9	3	1	1	14

表－2 奨学生区分別増減

（単位：人）

区 分	年度当初 (継続者)	期中増減		年度末
		増	減	
幼 児	3	3	0	6
小 学 生	15	1	0	16
中 学 生	20	1	0	21
高校生等	38	2	0	40
大学生等	25	7	0	32
特別支援	2	0	0	2
計	103	14	0	117

3. 会議に関する事項	8
(1) 理事会	8 ～ 9
(2) 監査会	9
(3) 評議員会	9 ～ 10
(4) 奨学生選考委員会	10
4. 登記に関する事項	10
5. 許認可等に関する事項	10
6. 紺綬褒章に関する事項	10
別表（1）2025年度 都道府県別奨学生数及び奨学金額	11 ～ 12

IV. 財 務 諸 表	13
貸 借 対 照 表	14
正味財産増減計算書	15 ～ 16
正味財産増減計算書内訳表	17 ～ 18
財務諸表に対する注記	19 ～ 21
附 属 明 細 書	22
財 産 目 録	23
監査報告書（監事監査）	24

(2) 実績

奨学金および入学記念品（祝金）の実績は、表－３のとおり。

奨学金は三か月ごとに年４回給付した。入学記念品は新入生に贈呈した。

なお、都道府県別の奨学生数等は、11～12ページに掲載。

これらの資金には、寄附金および、それらを財源とする資産の運用益を充当した。

表－３ 奨学金、入学記念品の実績

(単位：円、人)

区分	実績			参考 一人当たり	
	奨学金	入学記念品 (祝金)		奨学金/年間	入学記念品 (祝金)
		人数	金額		
幼児	864,000	—	—	144,000	—
小学生	2,483,000	1	70,000	156,000	70,000
中学生	6,048,000	7	350,000	288,000	50,000
高校生等	14,400,000	12	600,000	360,000	50,000
大学生等	19,200,000	5	750,000	600,000	150,000
特別支援	720,000	0	0	360,000	上記区分と 同じ
計	43,715,000	25	1,770,000	—	—

２．貸与した奨学金返還

2019年度から奨学金は給付のみとし、新たな貸与は行っていない。

現在は、過去の貸与金の返還受領および延滞者への督促を行っている。

本年度の返還総額は15百万円で、年度末の貸与金残高は167百万円となった。（表－４）

表－４ 奨学貸与金 返還等の状況

(単位：人、円)

区 分	実人数	金 額
A. 前年度末残高	217 [a]	183, 895, 770
B. 返還額 (内返還完了者)	148 (22) [b]	15, 673, 900
C. 免除額 (特別免除)	1 [c] (0)	714, 500 0
(免 除)	(1)	714, 500
D. 本年度末残高	194 [d]	167, 507, 370

実人数： $d=a-b-c$ 金額： $D=A-B-C$

3. 募金、交流、広報、調査

(1) 募 金 活 動

財務基盤強化のため、年間を通して全国で募金活動を行った。本年度も全国から、個人、水産関係団体・企業、JFグループ、漁船海難遺児を励ます地方協議会（地励協）、漁船海難遺児を励ます全国協議会等から多額の支援を受けた。（表－５）

(2) 奨学生・保護者との交流活動

奨学生と保護者、奨学生同士、保護者同士の交流を深めるため、毎年、子供の夏休みに宿泊を伴う「ふれあい旅行」を実施している。

本年度は8月21～22日に東京都内およびディズニーリゾートで実施し、奨学生22人、保護者15人、地励協2人の計39人が参加した。

(3) 広報

① 「育英会だより」の発行

年4回、各4,000部を発行し、遺児家庭、励ましおじさん・おばさん、寄附者、JFグループ、その他関係先に配付した。

② イベントでの広報、募金活動

漁船海難遺児のための育英事業を、業界関係者のみならず広く社会に知ってもらい支援の輪を広げるため、全国豊かな海づくり大会やFish-1グランプリなどの大型イベント会場で、育英会の活動内容の広報、資料配付、募金活動を実施した。

③ その他広報

育英会の活動内容を多くの国民に知ってもらい広く支援を得るため、報道機関等への広告出稿、取材等の協力を得るなどの広報活動を行った。

ホームページは常に最新情報へ更新し、情報発信に努めた。

(4) 進路調査

中学・高校・大学等の卒業後の進路を調査し、その結果を「育英会だより」で報告した。支援者にも育英事業の成果として報告すると共に、将来を考える奨学生には多様な進路の実績を紹介し、選択の幅を広げられるよう情報提供を行った。

II. 寄附金、基本財産、特定資産

1. 寄附金（修学助成寄附金）

寄附金総額は43百万円となった。このうち定期継続の寄附者「励ましおじさん・おばさん」は68人（年度末）で、寄附額は2,683千円であった。

（表－5）

表－5 寄附金

（単位：円、％）

区 分	金 額	構成比
一 般 寄 附	40,546,942	93.8
（うちJFグループ）	（ 20,892,529 ）	（ 48.3 ）
励ましおじさん・おばさん	2,683,000	6.2
合 計	43,229,942	100.0

2. 基本財産（投資有価証券）

基本財産として保有する投資有価証券は、年度末時点で5,975百万円となった。（表－6）

表－6 基本財産（投資有価証券）

（単位：円）

本 年 度 期 首 額	5,936,453,099
償 還 額	380,000,000
購 入 額	417,344,000
償 却 額	2,118,310
本 年 度 期 末 額	5,975,915,409

3. 特定資産（修学助成資金積立資産）

特定資産のうち修学助成資金積立資産は、576百万円となった。

（表－7）

表－7 修学助成資金積立資産額

（単位：円）

本 年 度 期 首 額	524,595,512
本 年 度 増 加 額	62,508,599
本 年 度 減 少 額	10,889,987
本 年 度 期 末 額	576,214,124

（内訳） 投資有価証券 300,000,000円

預貯金 276,214,124円

以 上